

IV おわりに

未曾有といわれる阪神・淡路大震災を契機として、地元はみな、人の命、人の優しさ、人と人とのつながり等の尊さを再認識した。

また同時に、食は、命を保ち、健康を維持する最も基本的な要素であることも認識した。

しかし、どのような内容の食品を供給すべきかというところで、それぞれの立場により、かなり異なる見解をもって、対策に望んだことも事実である。

このことは、食生活支援関係部局に、栄養思想が十分に普及できていなかったともいえ大いに反省をさせられるところである。

今後は、このガイドラインの普及とともに、より一層の栄養思想の普及に努め、今後の災害時においては、関係各方面の共通の認識の下、より望ましい食品供給及び食生活改善を含む保健活動がなされるよう、関係者の連携を図っていきたい。